

# 私の博物誌

題字 石川進

第七回

「パンドラの匣」

このところ地元福島県では、天然食材の激減ぶりに不安を感じる人は多いと思う。現代人が弄んだ末に到達せざるを得なかった「パンドラの匣」が開いたのだ。地震列島ともいべきこの国は、恒常的に地震を予期せねばならない運命を負っている国といってもよい。

私達の国は至るところ、陶磁器の貫入の如く活断層が縦横に迷走する現実を負った国だ。

そのめくららひびが迷走する活断層の上に、「パンドラの匣」が置かれ、既に口が開いたものを含め五十四個が日本列島に並んでいる。

今まさに形容しがたい巨大な化け物が世に飛び出そうと、その機を窺っているのだ。

既に飛散した化け物の一部は太平洋を汚し、山林を冒し、田畑や河川、湖沼の長期に亘る汚濁は、恢復の目途さえたえず、十

て不自由な生活を強いられるという現実が続いている。

この二年余り、政治家、官僚、東電トップ等の話はその場凌ぎにしか聞こえず、メディアのキャスターが鋭意率先して現地入りをして、不安を煽るだけのものが多く、住民の一人の人にさえ返答が出来ない場面もあった。

本当に真剣な顔をしていたのは、現地住民の方々と地方行政の少ないトップの方ぐらいで、強い国には弱く、弱い国民には強いという陋習を堅持する政治家と役人、それに最も憎むべきは、知らぬ顔の半兵衛を決め込む、元東電の者共だ。その徒の掌の上で右往左往させられる国民は、不幸な民だ。

二年前の地震と津波の後、都合の良い言葉が捏造された。今では間遠になりつつあるのだが「想定外」という、弁解とも説明ともつかない言葉遊びを聞いて、私は「ケ

たのだ。

この当時、パンドラの匣製造会社は温かな上文言もいわず、ニコニコとして金を出した日本企業は極めて商売がやり易かったといったという。そして、向こうを向いて真つ赤な舌をペロリと出したことである。「想定外」を楯として世論の矢は防げないことを、尻馬に乗って煽りたてるメディアも信用に足るものではない。

消費の時代が美德視されたのは幻影である。そして更に、偏差値エリートのは日本、いや地球の未来を托せる人種には思えないのだ。

一つ思い出すことがある。「勿体ない」でノーベル賞を獲得した女性が居られたことを私達は反芻せねばならないと思う。希望を武器として。

書いている人



石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員、書法探求顧問



BEAUTY SALON KAZUKO  
ビューティサロン **和子**  
am 8:00 ~ pm 6:00  
定休日 月曜日

◆◆◆◆ 着付けの予約を受け付けております ◆◆◆◆  
営業時間外に希望があれば、ご相談に応じます。

いわき市遠野町入遠野前田99-5  
PHONE (0246) 89-4231

今日も安全運転

●短期免許取得  
●運転免許ローン有  
●託児所完備  
●卒業生に傷害保険付

公認 **湯本自動車学校**  
いわき市常磐水野谷町千代鶴1の2 ☎43-7781

故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて  
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。

■法事会館及びホール

やすらぎの杜遠野  
〒972-0161いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1  
TEL.0246-89-4777